

1.「議会改革PT(プロジェクトチーム)」が県議会改革を提起

県議会の主要4会派の代表らで構成されている「議会改革PT(プロジェクトチーム)」は、改選後の5月17日に改めて会合を開き、改選前の2月に開かれたPTに加え、以下の点が確認されました。

- ①議会事務局に政策立案を支援する専門職員を置く。
- ②人事案件は時間をかけて審議する。
- ③議案や答弁の過剰な事前説明(すり合わせ)をなくす。
- ④「広域行政機構」の制定に備え、九州各県議会としての構想をまとめる。
- ⑤代表質問については、議長の判断で質疑時間が延長できる。
- ⑥議員席の最前列に質問者を待機席を設け、登壇・降壇の時間を短縮する。また、質問者の横に補助員(同会派の議員)を着席させることができ、質疑のサポートを行わせることができる。
- ⑦議会の承認の必要な県関係の人事議案は、定期例会の開会日に提出するよう県当局に求める。

以上の内容となっています。

6月議会は6月22日に開会され、7月20日までの約1ヶ月間の会期となります。小川新知事のもと、今議会は初の本格的な論戦の場となります。PTで確認された県議会改革の中身が、早速、6月県議会で試されることになります。県民・市民の信託、付託に応える県議会をめざしていきます。



▲福岡県議会棟

2.宮城県内の震災被災地を視察しました

3月11日の東北大地震発生から3ヶ月が経ちました。6月20日現在、死者1万5千5百人、行方不明者7千6百人を超え、避難・転居者は12万5千人にも上る未曾有の大災害となっています。私は、去る5月30日から31日にかけ、宮城県内の震災被災地を視察しました。

初日は、レンタカーで仙台市内を出発、三陸自動車道を通り、石巻市内に入りました。石巻市内に入ったとたん、それまでの風景とは一変。海岸沿いの工場群、そして、沿岸部の住宅地は津波で激しく破壊されており、津波の爪痕が目の前に飛び込んできました。

その後、石巻市内が一望できる「日和山公園」に登り、改めて全域を見たのですが、市内が壊滅状態にあることが一目瞭然、絶句状態となりました。

その後、398号線を通って女川町に入りました。

女川町の被災状況はテレビで幾度も放映されました。が、海岸線から数百mほど内

陸地の高台(約20数m)にある「町立病院」、「社会福祉協議会」の建物を残し、町は津波によって壊滅状態、一つの町がそつくり消滅した状態でした。

予定では、女川町の視察後、国道398号線を通って南三陸町に入り、深夜には気仙沼市に到着、宿泊予定だったのですが、女川町は地震による地盤沈下と、台風による大雨、そして満潮が重なり、沿岸部が冠水、海沿いの国道398号線が通れず、南三陸町入りは断念しました。

女川町からは予定を変更し、福岡県がベースキャンプとしている宮城県遠田郡美里町「土田畠村(どたばたむら)」を表敬訪問しました。現地には、午後6時半頃に到着したのですが、ちょうど派遣先から戻って来た県職員をはじめ、県内自治体から派遣されている職員と合うことができました。皆さん疲れた顔も見せず、被災者の方々を想う声が聞けたのは頗もしくあり、感謝の気持ちで一杯になりました。

二日目は、仙台市内を中心に周り、都心

部の被災状況を見て回りました。都心部は、地震の揺れによる建物の崩壊、地滑りなどの被害が出ており、青葉城の「昭忠碑」の鳶の像も崩れ落ちていました。

今回の視察は二日間ではありました。改めて、現地を見ずに、被災地や被災者を語ることはできないと思いました。そして、今まで「震災復興」ということを何と軽々しく使っていたのだろうかと反省しました。

被災地を見て思ったのは、復興には10年単位の時間と、莫大な予算。そして、全国からの現地支援(ボランティア)が継続して必要であることを痛感しました。私も復興支援に向け、一層の尽力を決意しました。

- ①市内は津波被害に加え、火災延焼により壊滅状態です。
- ②「日和山公園」から市内を一望すると、被災状況の大きさに改めて驚くばかりです。
- ③写真左手の高台にある町立病院の1階まで津波が押し寄せた。
- ④津波で一つの街が壊滅状態
- ⑤地盤沈下と大雨と大潮で街は水没

